

研究者リーダーシップ・プログラム

「第1回 参加者による自己紹介とリーダーシップについて」参加レポート

第1回「参加者による自己紹介とリーダーシップについて」への参加を通じて、業務に真摯に向き合い、着実に取り組むことが成功につながるのだと改めて実感した。また、一人で全てを成し遂げることはできないからこそ、「頼れるリーダー」を目指すことだけが重要なのではなく、チームでビジョンを共有し、共通の目標に向かって誠実に取り組む姿勢を持つこと、そしてメンバーとの信頼関係を築くことが不可欠であると気づいた。

さらに、他者からアドバイスを受ける際には、まず肯定的に受け取める姿勢を持ち、また自分が助言する立場になった際には、相手が自ら考え、行動する余地を残すことが大切であると学んだ。こうした姿勢は、実際に研究を遂行する場面だけでなく、研究を始める段階、すなわち研究チームを組織する際や科研費申請書を作成する際にも求められる。研究の意義や熱意を周囲に伝え、共感を得ることが、研究を前に進めるための重要な要素であると認識した。一方で、これは私自身が特に苦手としていることの一つでもあり、今後克服していくべき課題であると感じている。

また、ジェンダーギャップについて「伸びしろ」と捉えることで、その差を埋めることがさらなる成長につながるというお話があった。この考え方は、ジェンダーに限らず、さまざまな課題に応用できるのではないかと感じた。例えば、先に述べた「研究の意義や熱意を伝えることが苦手」という自身の課題についても、理想と現状とのギャップとして捉えることができる。この差を明確に認識し、本プログラムでの学びを実践に移しながら克服していくことで、現在よりも多くの人を巻き込み、より大きな研究成果に繋がれるのではないかと考えている。